

刊行によせて

平成 26 年度から展開している「札幌市教育振興基本計画」では、市民一人一人が生涯にわたって学び続け、時代の変化に対応できるよう、各発達段階の「縦」の接続をより円滑にし、学校、地域、企業等の「横」の連携を強化することが重要であると考え、幼児期から生涯を通じて一貫した教育理念を掲げ、社会全体でその実現に向けた機運を醸成する必要があります。

幼児期の教育（幼稚園・保育所・認定こども園における教育）は、遊びを通して身体感覚を伴う多様な活動を体験することによって、豊かな感性を養うとともに、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものです。また、小学校からの教育は、子どもの有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うとともに、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うという役割を果たしていくものです。

このように、遊びを中心とした幼児期の教育と教科の学習を中心とする小学校教育では教育内容や指導方法が異なっているものの、幼稚園・保育所・認定こども園から小学校へと子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育は円滑に接続されていることが重要です。

札幌市教育委員会では、平成 25 年度から、子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続するために「幼保小連携推進協議会」を設置して、各園・学校の取組等を交流・協議してきました。

また、平成 26 年度から、幼保小の連携・接続を推進し、発達や学びの連続性の在り方等について、実践的研究を行う「幼保小連携モデル事業」を実施しているところです。

本市における幼保小の連携・接続が、より実践的に図られるように、実践研究会の実践と各幼稚園・保育所・認定こども園及び小学校の実践を 3 か年計画で事例集として刊行することにしました。

各園・学校の実践がここに共有できることを大変意義深く思うとともに、本事例が各園・学校の特徴に応じて、更なる連携・接続の向上に寄与し、活用されることを期待しております。

平成 27 年 3 月

札幌市教育委員会

児童生徒担当部長 松田 昌樹

幼保小連携推進協議会の設置について

● 目的 ●

子どもの発達や学びの連続性を保障するために、幼児期の教育(幼稚園・保育所・認定こども園における教育)と児童期の教育(小学校における教育)を円滑に接続する。

● 設置の概要 ●

- 全市のことを協議 「札幌市幼保小連携推進協議会」
開催回数・・・年1回程度開催
- 各区のことを協議 「区幼保小連携推進協議会」
開催回数・・・年3回程度開催

● イメージ図 ●

更なる継続的な幼保小の連携のために

各区研究実践園を中心に幼保小の連携を推進

より**組織的、機能的、継続的**に体制整備を行う

幼保小連携推進協議会

各区に協議会を設置し、幼保小の管理者・教職員の定期的な会を実施

札幌市幼保小連携推進協議会（年1回開催）

区幼保小連携推進協議会（年3回程度開催）

- 1回目 幼保小の管理者・教職員の顔合わせ
交流計画
- 2回目 全体研修（講演会等）
実践交流
- 3回目 区幼保小連絡会
次年度へ向けて（反省・計画等）

考えられるメリット・効果

子どもの
入学前後の情報交換

子どもの
交流活動の充実

幼保小の一貫性
のある教育活動

教職員の相互理解

